

兵庫県こころのケアセンター 令和3年度実施分に係る
外部評価委員会 事業評価

評価対象事業	評価	所 見
研修事業	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保健・医療・福祉等の各領域で普及が望まれている「トラウマインフォームドケア」に関し、基礎と専門の研修に整理しての実施は受講者のニーズに合致している。受講者アンケートでも高評価であり、県外受講者が約70%と県外への広がりが大きくなっており、期待どおりの成果が得られていると考えられる。 ・コロナ禍で1コースを中止せざるをえないなか、オンラインを活用し、計画している受講人数を超える研修を実施し、全受講者の年間目標を達成したことは、大きく評価できる。引き続きコロナによって一層ニーズが高まる研修の内容改善にも努めて、多くの理解者を増やしていただきたい。
情報の収集 発信・普及 啓発事業	A	<ul style="list-style-type: none"> ・こころのケアシンポジウムは、コロナ禍のメンタルヘルスへの影響というタイムリーでニーズの高いテーマを選択して実施し、参加者評価も高い内容になっていた。また、オンライン併用で多くの参加者が学ぶ機会を得ることができ、時節柄、適切であった。 ・ホームページのアクセス数が年間目標を大幅に上回っていることは、情報源としての役割を十分に発揮していることであり、評価に値する。今後も幅広い方々への情報発信、普及啓発活動を期待する。
連携・交流 事業	S	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災、熊本地震などの災害支援を持続的に多くの対象者に対して行っていることの意義は大きい。オンラインを積極的に活用するなど、コロナ禍での危機対応支援114回（現地派遣5回）は、これまでの自然災害とは異なった新たな災害支援であり、当センターならではの取り組みを高く評価する。 ・災害派遣精神医療チーム（DPAT）について、関西地域における連携、オンライン研修会の実施など、支援体制の充実につながっている。関係機関会議をリードし、今後、その成果が発揮されることが期待される。
相談事業	S	<ul style="list-style-type: none"> ・相談件数は、昨年度より減少しているが、軽微な相談が少なくなり、PTSD関連の相談が増えており、特に、虐待やDV相談の件数が増加していることでセンターの専門性が発揮されている。虐待、DVの相談は児童相談所などの機関との連携が進んでいることの表れであり、専門機関としての信頼性の高まっていることが窺える。特に、子どものトラウマを扱える機関が少ないなか、重要な役割を担っていると考える。限られた人員、体制の中で非常によく対応している。 ・相談支援のノウハウ（入口・継続・終結等）を、兵庫県外にも広く伝えていただきたい。

評価対象事業	評価	所 見
附属診療所の運営	S	<ul style="list-style-type: none"> ・治療が困難なトラウマ関連疾患に有効とされる PE, TF-CBT、EMDR などの治療法を提供できる全国でも非常に少ない貴重な機関である。技術と時間が必要な治療を駆使しながら、受診件数が目標件数を 600 件以上、上回っていることは、関係者が非常な労力を費やしていることの現れであり、高く評価する。また、土曜日の開所により、学生、勤労者、家族のニーズを受け止めていることの社会的意義は大きい。 ・ニーズが複雑化、また診療や治療の長期化やその難易度も高まる中においては、人員を含めた体制整備が課題とはなるが、引き続きそのニーズに応えるために役割を果たしていただきたい。
ヒューマンケアアカレッジ事業（音楽療法士養成講座）	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響から、兵庫県音楽療法士の新規認定の対象者が無かったことは致し方ない。音楽療法士養成講座について、コロナ禍で制約があるなか、専門講座や審査会の開催など工夫しながらも可能な範囲で対応してきたことは評価される。 ・コロナ禍が続くことも念頭に計画の見直し等も早めに行っていく必要がある。
ヒューマンケアアカレッジ事業（実践普及講座）	A	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化社会が進む中、死への準備や死別の悲しみは健康づくりの観点からも重要な課題である。受講者合計数は、目標を達成していないが、応募者は多く、テーマが関心の深いものであったことが窺われる。 ・コロナ禍の中、募集定員を減らすなど、受講者ニーズを十分に把握し、現実的な対応ができたことが受講者満足度につながったと推察される。 ・県民の健康作りや地域福祉の向上に寄与するために、効果的な受講案内をすすめ、継続して講座が実施されることを期待したい。
安定的な運営のための収支バランスの確保等	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響によって事業や業務に影響を与えたことは否めないが、広報やインテーク会議の運用などで診療件数の増加につながったことは評価できる。宿泊事業については困難な状況であったが、全体的には余剰金を計上できたことなど安定的な運営につながっていることが認められる。 ・スタッフの献身的な活動の成果であるが、働き方改革・ワークライフバランスが進められるなか、残業時間・年休消化等の把握・検討も求められる。
研究調査に係る総合的な評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害の被災者を対象として包括的心理社会状況ツールの開発に関する研究では、3 年間の地道な面接調査の積み重ねで基礎的データを得ることができ、意義ある研究成果となった。トラウマインフォームドケアの普及に関する研究では、TIC 研修に必要な要素が浮き彫りになり、児童福祉領域への介入への展開が期待される。成人の PTSD 診断尺度である CAPS-5 の標準化に向けた取組みが順調にすすめられていることが分かる。 ・短期研究でもタイムリーなテーマを取り上げ、長期研究とともに、センターの相談機能、診療所の実践と密接な関係がある内容であり、相談、治療への展開が期待できる内容になっている。 ・積極的に競争的資金を獲得していることは高く評価されるべきである。

(評価基準)

S：年度計画を大きく上回り、中期計画を十分達し得る優れた業績を上げている。

A：年度計画どおり、中期計画を十分達し得る可能性が高い。

B：年度計画どおりと言えない面もあるが、工夫もしくは努力によって中期計画を達成し得る。

F：年度計画を大きく下回っている、又は中期計画を達成し得ない可能性が高い。